

浄土真宗東本願寺派野中山正山寺

ほつ寺通信

第11号

平成28年10月7日
責任者 野正慶
発行 藤野慶正
(住職)

報恩講

十一月十三日 (日曜)
午後一時から二時まで

例年通り、浄土真宗の門徒にとつてとても大切な報恩講が厳修されます。宗祖親鸞聖人を偲び、一緒に正信偈をお読みしましょう。また、ご好評頂いております浅草・緑泉寺の青江寛明先生のご法話もあります。仏縁を深めるためにも是非お誘い合わせの上、ご参詣ください。

■町田駅バスセンター発
小山田行

(行き) 十二時十二分
(帰り) 三時 十分

■淵野辺駅北口前発
小山田はなみずきの丘行

(行き) 十二時二十分
(帰り) 三時十八分

※小山田停留所でお降り下さい。

住職の仏々(ぶつぶつ)

皆さんこんにちは。暑い夏が終わりお彼岸を過ぎ、めっきり涼しくなってきました。この季節(自然)の変化というものはありがたいもので、生活に潤いをもたらしてくれますね。とは言いましても、昨今では記録的な気候(猛暑や豪雨など)も増えてきており、私達人間による環境破壊が何らかの影響をもたらしているようにも思えます。しかし、地球誕生からの長い年月で考えてみますと、いつ何が起きてもお不思議ではありません。ここは諸行無常、自然に身を任せ、今を精一杯生き抜くことが大切なのではないでしょうか。皆さん、今を大切に生きていますか? 人生は一生に一度きりです。くれぐれも後悔のないよう、前向きに行きたいものです。

挨拶

皆さんは、挨拶が正しくできていますか? 「おはようございます」「さようなら」「よろしくお願ひします」「ありがとうございます」、このような挨拶がきちんとできると、気持ちのいいものです。こんなことを今更大人の方に申しては失礼かとも思いましたが、今の世の中、こういった挨拶ですらできない老若男女が増えているというのも事実のようで、残念です。とは言いましても、例えば、「コンビ二等で」「いらつしやいませ」と挨拶されても、言われて当然のように返事をしない自分がいたりします。これはある意味傲慢な態度に思え、せめて「会釈」でも返すべきだったかと反省しています。

この挨拶という言葉、実はもともと仏教用語なんです。挨拶の「挨」は「押し開く」、「拶」は「せまる」という意味があります。また、「挨」は「軽く触れること」、「拶」は「強く触れること」であるともいわれています。禅宗では、「一挨一拶」といって、師匠と修行者、あるいは修行者同士が、軽く、あるいは強く、言葉(問答)や動作で、相手のさとの深さを試すことをいいます。そこから転じて現在は、人に会ったり触れたりする時に取り交わす、言葉や動作のことをいうようになったのでしよう。心のこもった挨拶ができることが理想ですが、まずは、言葉や動作から始めてみるのも大事ですね。本当は、相手に対する尊敬や感謝の心を、言葉や動作の形で表すことを挨拶というのかも知れませんが、形から心を学ぶということも大切なことです。

また、仏様(阿弥陀仏)の前で手を合わせ、念仏(南無阿弥陀仏)を称えるのは、仏様への挨拶といえるのではないのでしょうか。家族の皆が、仏壇の前で「いつも見守っていてくれてありがとう」という気持ちで、朝晩、仏様・ご先祖様へ挨拶(念仏)をしたいものです。そして、それが仏様の願いにかなった生き方をしているか? ご先祖様に恥じることはない人生を過ごしているか? 等の振り返る機会になることを念じております。

責任役員変更

長年責任役員として活躍された細谷朝日氏が一身上の都合により任期の9月末をもって退任されました。これに伴い、総代会議の話し合いの結果、新責任役員として林定男氏が就任されたことを報告します。どうぞよろしくお願い致します。(細谷朝日氏には総代として引き続きご協力頂きます)

人物紹介

この欄では、正山寺にご縁がありキラリと光る方を紹介していきます。初回である今回は、9月末に責任役員を退任された淵野辺にお住まいの笑顔の素敵な細谷朝日さん(80歳)を紹介します。

朝日さんは、30年の長きに渡り、総代・責任役員をお受け下さり、その温厚なお人柄、献身的なご協力、それに実直なアドバイス等を頂ける、正山寺になくてはならない存在の方です。折角ですので、身近に感じていただきたいと思います、インタビュースせて頂いた内容をそのまま紹介します。

【趣味】ゴルフ(歴40年)、カラオケ、仕事(若い頃) ※ゴルフはホールインワン2回達成とのこと、素晴らしいですね。

【家族について】孫娘達と食事に出かけるのが楽しみ。

【日頃から心がけていること】健康第一と考えています。

【正山寺について】総代、責任役員と長年勤めさせて頂きました。小生には重職過ぎると思いましたが、正山寺の事を考え、当家の先祖代々の供養になる事と思い、勤めて参りました。

【その他】変わりゆく社会の変化、寺の経営運営、新就職の手法に期待しております。※身に余るお言葉、期待に沿う様、努力致します。



※昨年の開山400年記念法要でのご挨拶にて

坊守のコラム

今年の夏は、オリンピックでの日本人の活躍ぶりが、素晴らしかったですね。息子も、応援しつつも影響され「オリンピック選手になる!」と。最初は、水泳の選手。

翌日には体操の選手。はたまた愛ちゃんを見ては、卓球と、毎日□□□変わる将来の夢に、笑ってしまいました。最終競技は、陸上選手。「ボルトに負けるもんか!」とテーブルの周りを走り回りました。「お坊さんになる!」と最初に言ってくれてから、いくつの将来の夢が、出てきたことでしょうか。好奇心旺盛です。

さて、こんな親バカぶりを紙面に書いておきますと、時折、檀家さんとお話しをする際に、息子の話が出てきます。中には、住職の文章だと思われる方もいらっしゃるようです。坊守(ぼうもり)とは、浄土真宗では、坊(寺)を守るということ、主に住職の妻のことをいいます。他の宗派では、寺庭夫人とか大黒さんなどと呼ぶ所もあるようです。坊守と呼

ばれるには、まだまだその器ではないと思いますが、寺を守るというより、住職を補佐する、まずはそんな所から、やっていきたいと思っております。

あとがき

坊守のコラムにも出てきましたが、オリンピック、見えて清々しいものがありましたね。次の東京開催に向け、土気も上がるものと思います。さて、今回の大きな報告は、責任役員交代でしょうか。正山寺も未来に向け徐々に変わっていくものと思えますが、それには皆様のご協力あつてのこと、今後共、よろしくお願い致します。

寺報「ほっ寺通信」第11号

浄土宗東本願寺派 正山寺

住職：藤野慶正(発行責任者)
住所：〒194-0201 東京都小平市上田町1-50-4
電話：042-797-1446
FAX：042-797-9233
URL：<http://shousan.net>
メール：info@shousan.net